

兵庫県立 考古博物館 NEWS



Hyogo Prefectural
Museum of
Archaeology



Vol.5

2010 Spring - Summer



Photo: 竪穴住居の復元

—平成 22 年—

- 特別展「戦国時代の守護 山名氏の城と戦い」 2
- 企画展「夏休み・考古学ナゾとき教室」 4
- 学芸員が選ぶ、私のイチオシ館蔵品
「子持勾玉(雨流遺跡出土)」 4
- 雲部車塚古墳の研究 5
- 古代山陽道の駅家を調べる
「長坂寺遺跡の探査」 5
- 幼児向け体験プログラムを開発!
紙芝居と「やよいごっこ」 6
- 家族で楽しめる「考古博イベント」
前半のイベント、目玉はこれだ! 7

特 別 展

戦国時代の守護 山名氏の城と戦い

但馬の守護であった山名氏は、応仁・文明の乱で山名宗全（持豊）が西軍の主将として活躍するなど、室町幕府屈指の有力守護でした。今回の展覧会では、戦乱の時代を乗り切るために戦い続けた守護・山名氏の実像に、城や館からの出土品や絵画・文書などゆかりの品々から迫ります。

◆山名氏と但馬◆

但馬は応安5（1372）年に山名師義が守護となって以降、山名氏惣領家の本拠であり、山名氏にゆかりの品々が残されています。新温泉町楞嚴寺に伝えられる山名時熙画像は、山名氏当主の唯一の肖像であり、県指定文化財となっています（今回は複製を展示）。山名氏で最も著名な人物である山名宗全は、その生涯の大半を京都で過ごしましたが、出石神社へ納めた自筆の願文が社家に伝えられており、但馬と宗全のゆかりの深さを伝えています。また国宝東寺百合文書の中に、宗全からの礼状が納められており、京都の政界で活躍していた頃の様子がうかがえます。



山名宗全願文（個人蔵・豊岡市指定文化財）
写真提供：豊岡市教育委員会

◆山名氏の城と城下◆

山名氏が15世紀末から本拠としたのは、豊岡市出石町の此隅山城であり、城の麓には山名氏の館を中心とした守護所が営まれていました。兵庫県教育委員会では1995年から1999年にかけて、守護所の推定地（宮内堀脇遺跡）の調査を行い、15世紀末から16世紀後半にかけての武家屋敷群を発見しています。屋敷の堀の中などから、戦国時代の



此隅山城と宮内堀脇遺跡（豊岡市）

上級武士の暮らしぶりを知るうえで貴重な資料が出土しました。今回、この“戦国時代のタイムカプセル”から出土した資料の全容を初めて公開します。

出土品の中には中国（明）でつくられた青花磁器、青磁などの輸入陶磁器がたくさんあり、国産の陶器も越前焼や瀬戸・美濃など、遠隔地から運ばれたものが見られます。また兜鍬形台や刀、鏃なども出土しており、ここが戦いを日常とした武士の館であることを物語っています。



陶磁器（宮内堀脇遺跡・当館蔵）



兜鍬形台（宮内堀脇遺跡・当館蔵）

そして最も注目されるのが、様々な文字が書かれた出土資料です。「道祐禪門」の位牌や「乃木出羽守」という名前が記された木簡は、武家屋敷の住人の人物像にせまる手がかりとなるものです。堀の中からは仏事（追善供養）に使用された人名を書いた土器が大量に出土しています。僧俗、老若男女、様々な階層の人々の名前が記されており、守護所に集った人々を具体的に知ることができる貴重なものです。



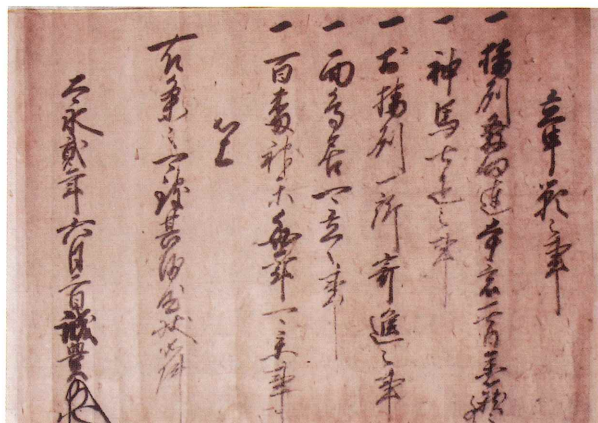
人名墨書土器（宮内堀脇遺跡・当館蔵）

◆山名氏の戦い◆

山名氏は南北朝時代から、戦い続けることにより興隆してきました。今回は播磨と因幡における戦いに関連する資料を紹介します。

山名氏は、赤松氏との間で播磨の覇権を巡り激しく戦いました。この戦場となったのが播磨の守護所であった姫路市坂本城で、発掘調査によって赤松氏時代を中心とする遺物が出土しています。

また養父市日光院には「播磨回復が叶ったら所領を寄進する」との山名誠豊の立願状が伝えられています。しかし山名氏は戦いに敗れ、覇権の回復は叶いませんでした。



山名誠豊立願状（日光院蔵・県指定文化財）

因幡は山名一族が守護を務める国ですが、16世紀中頃に出雲の尼子氏の勢力が侵入します。尼子方に通じた因幡山名氏を攻撃するために、但馬山名氏の当主、祐豊は因幡山名氏の守護所である鳥取市布勢天神山城へと軍を進め、因幡山名氏を滅ぼします。

この戦いの舞台となった布勢天神山城は、近年鳥取市教育委員会による発掘調査が行われ、輸入陶磁器など、但馬の守護所と共通する遺物が出土しています。

しかし但馬山名氏も、西に毛利、東に織田という強力な戦国大名が現れると、苦戦を強いられます。永禄12（1569）年には毛利氏の要請によって、織田軍が但馬へと攻め込み、山名氏の此隅山城はあっけなく落城。祐豊は堺（和泉国）へと逃亡します。その後、許されて但馬へ戻った山名氏は、有子山城（豊岡市）に居城を移し生き残りをはかりますが、天正8年（1580）に再び進攻した織田軍によって有子山城は落城、但馬守護山名氏は滅亡します。

◆特別展の視点◆

山名氏の守護としての権威は播磨争奪戦の失敗を境に次第に失われていきますが、但馬地域では最後まで中世社会の要として存在し、織田や毛利などの戦国大名たちと戦い続けました。

本展をとおして戦国時代を生きた山名氏の姿をご覧いただき、新たな視点で兵庫県の戦国時代史を見ていただくきっかけになれば幸いです。

（学芸課 多賀茂治）

《特別展のお知らせ》

会期 平成22年4月23日（金）～6月27日（日）

（月曜休館。但し5月16日までは無休）

観覧時間 9:30～18:00（入館は17:30まで）

観覧料金 大人500円、大学生400円、高校生250円、中学生以下は無料

講演会 講堂（13:30～15:00）

■4月24日（土）西口圭介（当館学芸員）
「戦国時代上級武士の暮らし」

■5月15日（土）千田嘉博（奈良大学教授）
「戦国時代の城郭を探る」

■5月29日（土）山上雅弘（当館学芸員）
「考古学が明らかにした戦国時代の守護所」

■6月5日（土）小林基伸（大手前大学准教授）
「山名氏と室町幕府」

■6月19日（土）岡田章一（当館学芸員）
「焼物が語る戦国時代」

企画展

「夏休み・考古学ナゾとき教室」

昨年、大好評だった企画展「夏休み・考古学ナゾとき教室」を今年も開催します！

前回は弥生時代をテーマに、昔の人たちが暮らした跡や道具から、7つのナゾを解き明かしてもらいました。今回はそれよりもっと昔の“縄文時代”が舞台です。まだ、お米が主食ではなかった時代「縄文人たちは何を食べていたの?」、「どんな姿の人たちだったの?」、「どんな道具を使っていたの?」などなど、いろんなナゾの答えを展示を見ながら探してください。

会期中の毎日曜日の午後には、クイズラリー「ナゾときにチャレンジ!」を開催します。館内を巡ってクイズの答え探しをお楽しみ下さい。

特別なイベントとして7月31日(土)の午後に開催する「縄文人オン・ステージ」では、縄文人に扮したスタッフが、特技を生かして楽しいパフォーマンスを披露しますので、どうぞご期待ください。

会期中は無休です。ぜひご家族で企画展をお楽しみください。

(学芸課 藤田 淳)



〈企画展のお知らせ〉

会期 7月17日(土)～8月31日(火)

期間中無休

●観覧時間: 9:30～18:00 (入館は17:30まで)

●観覧料金: 通常展示と同額です

シリーズ

学芸員が選ぶ、私のイチオン館藏品

『子持勾玉(雨流遺跡出土)』

こもちまがたま

子持勾玉とは、大型勾玉の胴体(腹部と背部及び脇部)に小さな勾玉状の突起物を有するものを言い、滑石などの軟らかい石で作られています。

分布は北の秋田県から南は鹿児島県の広い範囲に出土し、韓国でも発見されています。出土状況から見ると、石製模造品(有孔円板・剣形品・勾玉・白玉など)を伴うことが多く、倭王権のまつりの道具と言えるでしょう。

起源は玉が魂^{たま}を生じること求められ、用途は増殖と鎮魂を目的にしたものと考えられます。

兵庫県内では、集落遺跡や古墳、祭祀遺跡など16遺跡から19点が出土しています。そのうち4点が当館の所蔵で、雨流遺跡(南あわじ市)出土品は優品として、県指定文化財になっています。

当該品の特徴は、背部・腹部・両側面に合計10個の突起を持つことと、本体表面を2mm幅の帯状に削った丁寧な整形を施すことです。長さは8.1cm、重さ126gを測ります。



雨流遺跡出土
子持勾玉

子持勾玉の形態は、本体の断面形で見ていくと円形のもの(5世紀前葉に出現)から楕円形へ、その後、厚板状の長方形から扁平な長方形(7世紀後葉に終焉)に変遷します。これを参考にと、雨流遺跡出土品は楕円形であり、年代は5世紀末と考えられます。

本品は4月18日(日)までメインホールにおいて展示しますので、ぜひご覧下さい。

(学芸課長 大平 茂)

雲部車塚古墳の研究

兵庫県内で最も均整のとれた古墳のひとつである雲部車塚古墳（篠山市）。古墳時代中期（5世紀中頃）に築造された大型の前方後円墳で、墳丘の周囲に盾形の堀（周濠）を巡らし、左右には小さな古墳（陪冢）が見られます。墳丘の長さは約140mで、県内では五色塚古墳（神戸市）に次ぐランクになります。

明治29（1896）年、地元の人たちにより発掘され、石棺（長持形石棺）と、それを囲む石の部屋（竪穴式石槨）が見つかり、中から大量の鉄製武器（甲冑、刀剣類、矛、矢尻など）が出土しました。

全国的に見ても、大型前方後円墳の埋葬施設と副葬品の内容が明らかになった例は少なく、多くのナゾが残されているのですが、この雲部車塚古墳は、幸いにも発掘時のようすが絵図にして残されています。出土品の一部については京都大学で保管されており、大型古墳の副葬品の内容をうかがい知ることができる貴重な資料となっています。



当館の展示で雲部車塚古墳の内部を復元するにあたり、出土品などに関する調査を京都大学と共に行いました。このたび、その成果を『研究紀要』にまとめることになりました。

遺物の発見から113年が過ぎ、出土品の具体的な内容が明らかになりました。全国でも例を見ない矛や冑もあり、大型古墳研究に欠かせない資料です。

当館の考古学情報プラザに置きますので、ご利用ください。

（学芸課 中村 弘）

古代山陽道の駅家を調べる 「長坂寺遺跡の探査」

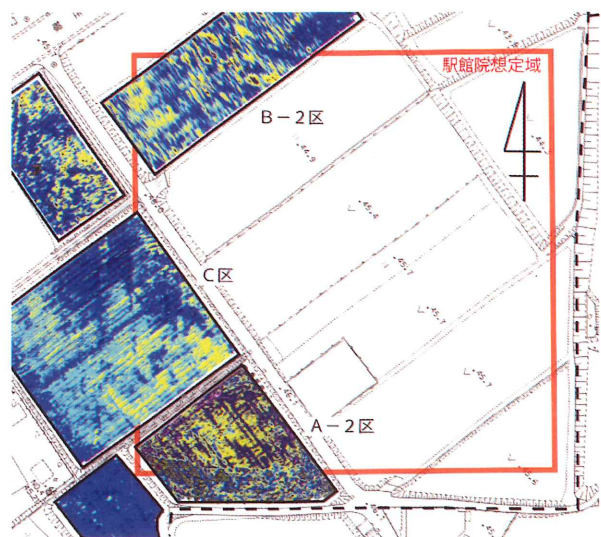
古代ローマ帝国には二千年も昔から、「すべての道はローマに通ず」という言葉で形容される“ローマ街道”が網の目のように通っていました。

日本の奈良時代にも都と諸国を結ぶ幹線道路があったことをご存じでしょうか？

特に、当時の国道1号線ともいべき山陽道は重要視され、乗馬の中継場所である駅家は、海外からの賓客を迎えるのにふさわしくするため、屋根に瓦を葺き・柱を朱に塗り・白い壁で建物を装っていたのです。

播磨国（今の兵庫県）には駅家が約8kmおきに設置され、明石市に所在する長坂寺遺跡は、採集された瓦から、かつて駅家があった場所とみられる遺跡のひとつです。古い地名にもとづいて「邑美駅家」と称されています。昨年度に続いて実施した地中レーダー探査で、地面に埋もれた駅家の痕跡を探りました。

レーダーが描くカラー画像から、今回は西辺の輪郭線（C区）が現れました。昨年度のA-2区



長坂寺遺跡のレーダー画像

のラインと、現地に残る田のあぜを合わせると、一辺約80mの方形の区画が浮かび上がりました。この規模は播磨国の他の駅家と共通するもので、偶然とはいえません。

こうした手掛かりを確実なものとするために今後も調査を継続します。

ご期待ください。

（学芸課 中川 渉）

幼児向け体験プログラムを開発！

紙芝居と「やよいごっこ（弥生ごっこ）」

ご来館、ありがとうございます。

当館にはこれまで約45万人の方々に来ていただいておりますが、考古資料を扱う歴史系博物館としては珍しく、小学生と、それより小さなお子様の来館がとても多いのが特徴となっています。

小学校6年生になると、学校で日本の歴史を学び始めます。4月から5月の時期は歴史の勉強の一環で県内各地の小学校に当館をご利用いただいております。

しかし1年をとおしてみると、土曜日、日曜日、祝日は、ご家族でのご来館が多くなります。なかでもおじいちゃん・おばあちゃん、お父さん・お母さん、そして子ども、の三世代が一緒に博物館をお楽しみいただいている姿をよくお見かけします。

当館では、小さい頃から歴史や博物館に親しんでいただくために、紙芝居や、「やよいごっこ（弥生ごっこ）」という名のハンズ・オンツール（触れることのできる道具）を制作中です。お客様の中には、小学校入学前のお子様もたくさんおられます。このたびはその方々を対象にした「幼児向け」のものを開発しています。開発に際しては、博物館の教育普及の専門家やデザイナー、そして保育園と幼稚園の園長に協力いただきました。

その内容を紹介します。

◆紙芝居◆

「むかしむかしのむかし、それよりむかしの、ずーっとずーっと、大むかしのお話です」で始まるオリジナルの紙芝居を作っています。お米を作り始めた弥生時代（1,800～2,500年前）の瀬戸内海近くのむらが舞台です。



「コタロー」くん

主人公の名前は「コタロー」くん、ちょっとなまけ者の男の子です。この「コタロー」くんは、ある日とっても怖い思いをします。それは…

このあとの話は博物館でご覧下さい。このお話をまとめたオリジナルの絵本も作っています。

◆「やよいごっこ」（弥生ごっこ）◆

ままごと遊びをしながら、紙芝居で描かれた弥生時代の世界に触る、ハンズ・オンツール「やよいごっこ」。

海や川、山や田んぼなどを配した舞台（たたみ一畳の大きさ）の上を、弥生時代の家「たてあなじゅうきょ竪穴住居」を中心に、人や動物のミニチュアが弥生時代の世界を動き回ります。動かすのは皆さんです。

登場する人物や動物はとてもやわらかい、ぬいぐるみでできています。かわいい鹿や猪、犬、魚や貝、タコやイカなどいろいろな動物がいます。



「やよいごっこ」に登場する人や動物たち

土器もミニチュアサイズで、材料に使った粘土は遺跡を発掘した時に出土したものを使っています。

鍬や鋤、丸木船などは、木を削って作りました。

稲の穂を摘む「石包丁」という石器も、大きさは3cmと非常に小さいですが、本物の石包丁と同じ粘板岩という石材を使っています。

ぬいぐるみやミニチュアの土器、石器、木製品を作っているのは、当館のボランティアのメンバーです。

紙芝居、「やよいごっこ」は、春から博物館のメニューに加わります。ぜひ体験してください。

（この事業は文化庁の平成21年度美術館・博物館活動基盤整備支援事業「親子三世代が楽しめる体験学習プログラムの開発と実践—特に幼児を対象にして—」として取り組んでいます）

（学習支援課 村上賢治）

家族で楽しめる「考古博イベント」 ～前半のイベント、目玉はこれだ!～

◆楽しいイベントがいっぱいの考古博◆

イベントをととして博物館を身近に、そしてより多くの方々に考古学に触れる機会を増やしていただけるよう、家族で体験できる企画をご用意しています。当館ならではのイベントをご紹介します。



◆G. W. 特別企画「考古博であそぼう」◆

4月23日から始まる特別展「戦国時代の守護山名氏の城と戦い」にあわせて、ゴールデンウィーク期間中に「考古博であそぼう・戦国時代編」を実施します。

5月1日からの5日間は、戦国時代を身近に感じることができる体験イベントを用意し、考古博は戦国時代に模様替えします。

イベントの体験メニューには、溶かした合金を型に入れ、磨いて古銭を作る「永楽銭をつくろう」や、今の子どもたちに人気のカードゲームの要素を取り入れた「戦国時代合戦カードゲーム」などのコーナーがあります。

このほか、兜のミニチュアペーパークラフトや戦国時代を素材にした紙芝居、火縄銃での射撃～実はゴム鉄砲です(^_^)～などが体験できるので、大人の方だけではなく小さなお子様も、遊びながら戦国時代の歴史と考古学に触れることができます。

◆夏休みには古代体験講座◆

夏休み期間中は古代体験講座として、土器やまが玉を作ったり、写生会や竪穴住居での宿泊体験

などを企画しています。

なかでも、子どもたちを対象にした「まが玉づくり」や埴輪^{はにわ}をモチーフにした「ハニワくんをつくろう」、家族で参加できる「大中遺跡に泊まろう」は人気が高く、毎年多くの方々に参加いただいております。「夏休みの宿題づくりにぴったりでした」、「親子での夏の思い出づくりになりました」などの感想をいただいています。

◆いつでもできる古代体験◆

考古博物館では、毎日できる古代体験があります。「まが玉づくり」や「ミニ石包丁づくり」、「ループ組みひも」、「火おこし」が、体験学習室で午前中は10時から12時まで、午後は1時から3時30分まで体験できます。博物館ボランティアがサポートしますので、初めてでも心配はありません。小さなお子様のために、塗り絵やパズルもご用意しています。

いつでも古代体験ができるということで、リピーターも多いコーナーです。



◆みんなで来てね!◆

考古博物館には古代人たちの技術や工夫を学ぶためのメニューがたくさん揃っています。みなさんも、いろんな体験をととして、古代人になってください。

考古博イベントに“家族みんな”でお越し下さい!
(学習支援課 石丸 裕志)

イベント・スケジュール

展覧会	月	講演会	解説・ツアー	イベント	体験講座
3月20日(土) ～4月11日(日) 企画展 「兵庫県発掘調査速報2009」	4月	10日(土) 兵庫考古学研究最前線 「戦国時代の守護 山名氏の城と戦い」 多賀茂治(当館学芸員)	4日(日) 企画展解説 4日(日) 実演!よみがえる古代の出土品 10日(土) バックヤード見学ツアー		
4月23日(金) ～6月27日(日)		24日(土) 特別展講演会 「戦国時代上級武士の暮らし」 西口圭介(当館学芸員)	18日(日) ギャラリートーク 18日(日) 実演!よみがえる古代の出土品 25日(日) 特別展解説		
特別展 「戦国時代の守護 山名氏の城と戦い」	5月	15日(土) 特別展講演会 「戦国時代の城郭を探る」 千田嘉博(奈良大学教授) 29日(土) 特別展講演会 「考古学が明らかにした戦国時代の守護所」 山上雅弘(当館学芸員)	2日(日) 特別展解説 2日(日) 実演!よみがえる古代の出土品 8日(土) バックヤード見学ツアー 9日(日) 特別展解説 16日(日) 特別展解説 16日(日) 実演!よみがえる古代の出土品 23日(日) 特別展解説 30日(日) 特別展解説	1日(土) 考古博であそぼう・戦国時代編 ～5日(水) 9日(日) 日曜戦国体験 16日(日) 日曜戦国体験 23日(日) 日曜戦国体験 30日(日) 遺跡見学会「山名の城を歩く」 30日(日) 日曜戦国体験	23日(日) シリーズ 古代の土器づくり講座1
	6月	5日(土) 特別展講演会 「山名氏と室町幕府」 小林基伸(大手前大学准教授) 19日(土) 特別展講演会 「焼物が語る戦国時代」 岡田章一(当館学芸員)	6日(日) 特別展解説 6日(日) 実演!よみがえる古代の出土品 12日(土) バックヤード見学ツアー 13日(日) 特別展解説 20日(日) 特別展解説 20日(日) 実演!よみがえる古代の出土品 27日(日) 特別展解説	6日(日) 日曜戦国体験 12日(土) 考古博で赤米を作ろう2010(田植え) 12日(土) 考古博水無月茶会 13日(日) 日曜戦国体験 20日(日) 日曜戦国体験 27日(日) 再現古代のまじないーひととがた流しー	25日(金) 古代の組みもづくり(入門編)
7月17日(土) ～8月31日(火) 企画展「夏休み・考古学ナゾとき教室」	7月	10日(土) 兵庫考古学研究最前線 「兵庫県の高地性集落」 深江英憲(当館学芸員)	4日(日) ギャラリートーク 4日(日) 実演!よみがえる古代の出土品 10日(土) バックヤード見学ツアー 18日(日) 実演!よみがえる古代の出土品	2日(金) 考古博 壁新聞コンテスト 表彰式 18日(日) ナゾときチャレンジ!クイズラリー 25日(日) ナゾときチャレンジ!クイズラリー 31日(土) 「縄文人オンステージ」	4日(日) シリーズ 古代の土器づくり講座2 11日(日) ガラス勾玉づくり 17日(土) ミニチュア銅剣づくり 23日(金) ハニワくんをつくろう 24日(土) 大中遺跡に泊まる! ～25日(日) 30日(金) 教員セミナー1 「授業に使える古代体験I」
	8月	21日(土) 兵庫考古学研究最前線 「旧石器時代の兵庫県」 久保弘幸(当館学芸員)	1日(日) 実演!よみがえる古代の出土品 14日(土) バックヤード見学ツアー 15日(日) 実演!よみがえる古代の出土品	1日(日) ナゾときチャレンジ!クイズラリー 8日(日) ナゾときチャレンジ!クイズラリー 15日(日) ナゾときチャレンジ!クイズラリー 22日(日) ナゾときチャレンジ!クイズラリー 29日(日) ナゾときチャレンジ!クイズラリー	6日(金) 教員セミナー2 「授業に使える古代体験II」 7日(土) ハニワ鉛筆立てをつくろう 13日(金) 本物を見ながら勾玉づくり 20日(金) 古代の組みもづくり(小中学生編) 21日(土) 考古博で写真会 28日(土) 本物を見ながら勾玉づくり
	9月	11日(土) 兵庫考古学研究最前線 「但馬の王墓～茶すり山古墳～」 中村弘(当館学芸員)	5日(日) ギャラリートーク 5日(日) 実演!よみがえる古代の出土品 11日(土) バックヤード見学ツアー 19日(日) ギャラリートーク 19日(日) 実演!よみがえる古代の出土品	18日(土) 考古博であそぼう ～20日(月)	5日(日) シリーズ 古代の土器づくり講座3

■「石棺に入ろう」は毎週土曜日、「古代船に乗ろう」は毎週日曜日に実施。14:00～15:00

■休館日:月曜日(祝日の場合は翌平日)※4月13日(火)～5月16日(日)、7月13日(火)～9月5日(日)は無休

兵庫県立考古博物館NEWS vol.5 2010 Spring-Summer

発行年月日 平成22年3月16日

編集・発行 兵庫県立考古博物館

〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1-1-1

TEL.079-437-5589

FAX.079-437-5599

http://www.hyogo-koukohaku.jp

- 電車をご利用の方/JR土山駅南口から「であいのみち」を徒歩15分
山陽電車播磨町駅から喜瀬川沿いを徒歩25分
- お車をご利用の方/第2神明・加古川バイパス明石西ICから約3km
- 駐車場/町営大中遺跡公園駐車場・野添であい公園駐車場をご利用ください(普通車1回200円)



触れる・体感する、考古学のワンダーランド。
兵庫県立考古博物館

